

今年の学力学習状況調査から

4月に実施した「全国学力学習状況調査」の主な結果をご報告いたします。対象が3年生のみであることや、年度当初の実施であることから、子どもたちの全体像を十分に示しているわけではありませんが、香中生の長所や課題を考える参考にしていただければ…と思います。



数学Bを除く3教科で、全道平均を下回る結果になりました。でも、小学6年生の時に実施した調査と比べると、国語A・国語B・数学Bの3教科で全道との差が縮まっています。

特に、活用力が試されるB問題では、国語・数学とも全道との差が大きく縮まりました。毎日の読書活動や、発表や話し合い等の言語活動を取り入れた授業作りの成果の一つだと考えています。

A問題で試される基礎的基本的な知識・技能については、まとめや振り返りを大切にした授業、放課後や夏休みの学習会等での反復練習によって、習熟と定着を図っています。また、毎年行っている3年生の家庭学習個別指導を、今年度は1学期末から開始し、すべての生徒に確かな力がつくよう取り組んでいます。

国語の学力		← 下回る 全道平均 上回る →				
基礎知識	話す・聞く能力			●		
	書く能力		●			
	読む能力		●			
	言語についての知識・理解・技能		●			
活用力	国語への関心・意欲・態度		●			
	話す・聞く能力			●		
	書く能力			●		
	読む能力		●			
	言語についての知識・理解	●				

数学の学力		← 下回る 全道平均 上回る →				
基礎	数学的な技能		●			
	数量や図形などについての知識			●		
活用力	数学的な見方や考え方		●			
	数学的な技能		●			
	数量や図形などについての知識・理解				●	



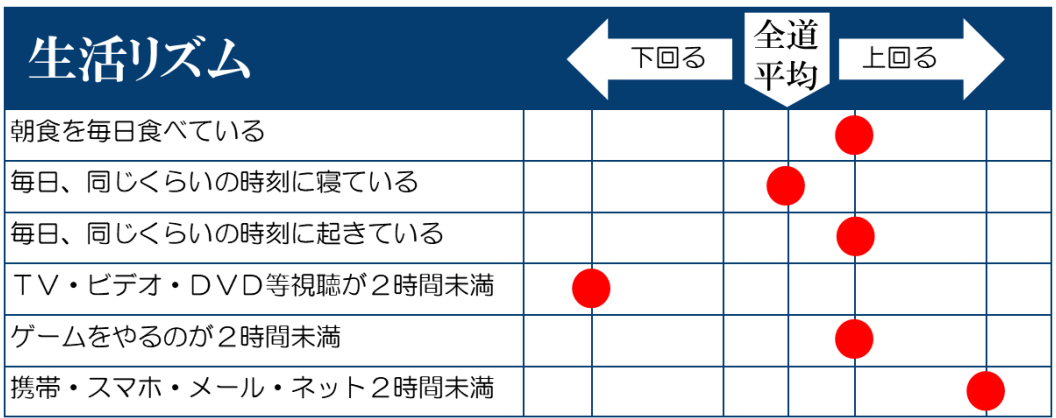
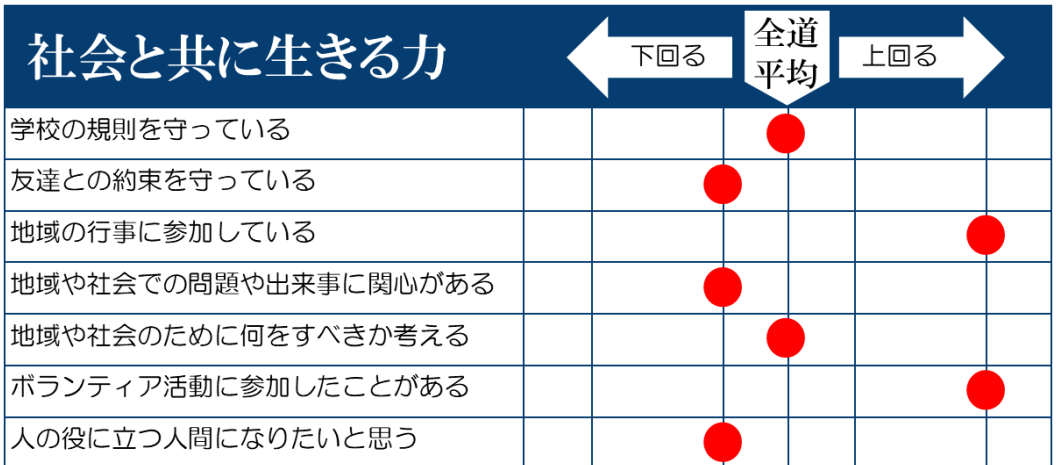
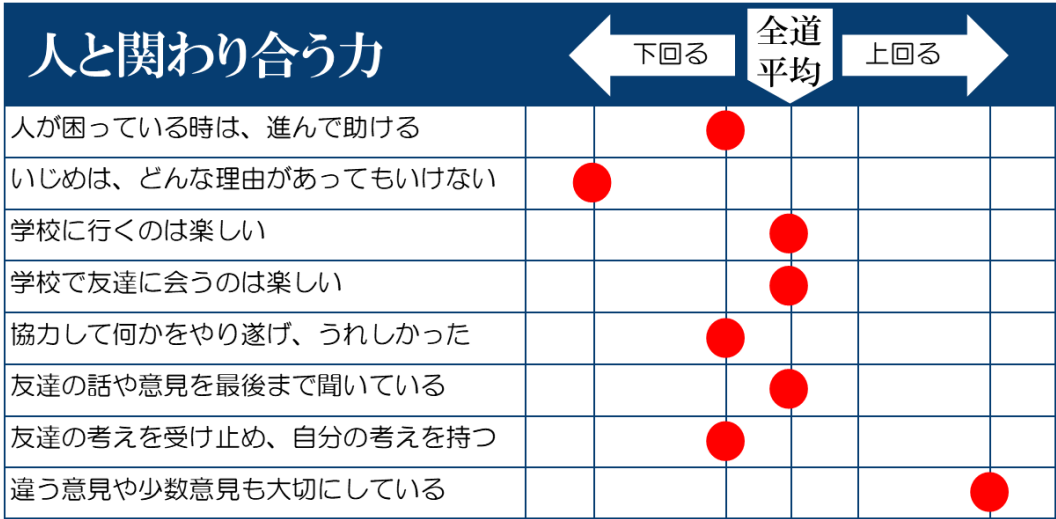
多くの生徒が「勉強は大切だ」という思いを持って、真面目な態度で学習に取り組んでいます。香中生の大きな特長です。ただし、授業で学習したことが社会に出た時に役に立つと感じている生徒は少ないようです。

家で、自分で勉強を進めていく習慣はありますが、平日、土日とも家庭学習の時間が短いことが課題です。

学習意欲・態度		← 下回る 全道平均 上回る →				
学校で好きな授業がある					●	
国語の勉強は好き						●
国語の勉強は大切だと思う				●		
国語の授業で学習したことは社会で役立つ			●			
数学の勉強は好き			●			
数学の勉強は大切だと思う					●	
数学の授業で学習したことは社会で役立つ		●				

家での学習習慣		← 下回る 全道平均 上回る →				
家で自分で計画を立てて勉強をしている					●	
平日、家で1時間以上勉強している		●				
土日、家で2時間以上勉強している		●				
平日、30分以上読書している				●		

「将来の夢や目標を持つ」ことは、ここ数年改善が図られてきています。職場体験学習等、地域の方の協力を得て進めているキャリア教育の成果だととらえています。今後も、挑戦する場や達成感を味わう経験をたくさん保障し、自信や自己有用感を育てていきたいと思っています。



協調性に優れ、友達の意見を聞いたり、折り合いをつけたりすることが上手な香中生です。

自分の考えを持ったり、困っている人を進んで助けたりという能動的な姿勢を育てるために、2学期は、行事等の取り組みを通して、より深く関わりあう学級・学年集団作りを重点的に進めています。いじめについては、その後の調査では全員が「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」という回答になり、深刻な問題も見られません。

「地域の行事やボランティア活動に参加する」数値が極めて高いのは、礼文町全体の毎年の大きな特長です。地域で健やかに育つ礼文の子どもです。



生活リズムは概ね良好で、特に「朝食」と「起床時刻」は全員が肯定的な回答です。昨年多かった「ゲームをする時間が長い生徒」は減りましたが、その分「テレビ等の視聴時間が長い生徒」が増えました。インターネット等の利用時間は全道平均よりも良い結果ですが、香中生の所持率は約5割。全道並み（8割超）の所持率になったらどうなるのか少し心配です。



礼文を訪れた人が新鮮なウニの美味しさに感動したという話をよく聞く。「これが本当の味なのか」と驚く人も多いという▼鮮度もさることながら、礼文のウニが美味しいのは、旨味を湛えたりシリコンプを食べているからというのは良く知られた話。水の良さ、気候の良さも含め、豊かな環境が豊かな味を育んでいる▼さて、二年続けて香中だよりで紹介した学力学習状況調査のデータ。子どもの学力が注目され、テストの結果が方々で話題に上らない日はないが、この調査は単に子どもの学力を数値化して評論する機会ではない。注目すべきは、その背景にある「学習状況」である▼子どもの育ちは日々の暮らしや経験を如実に映し出す。それは滋味あふれるウニを味わいながら、島の風土をどこかに感じることに似ている▼「良い木を育てるには、良い森を育てよ」と言う教えがある。子どもたちのできること、できないことの向こう側に広がる森に目を向けることが大切だ▼島の海の豊かさ、大切さを語り継ぎ、守り続けてきたのは島の大人だ。今号のデータを読む時はそんな立場に身を置いてほしい。「学習状況」はひとりでに生まれたものではない。環境は常に社会の「今」を映し出している。